

## 経営者への活きた言葉

## 徳目を体した「真実の人」づくり 柳生 耕一平 厳信(柳生新陰流兵法第22世宗家)

1. 柳生新陰流という剣術には映画や小説で有名だが、この教えが「真実の人」づくりにあることはあまり知られていない、柳生新陰流の特徴は、次の三つの言葉で表わすことができます。  
(1)性せい自然しぜん(2)転まるばし(3)真実の人 一つ目の「性自然」とは、水が上から下に流れるように大自然の運行法則に従うことで、そこから派生して「刀身一致」「心身一如いちによ」という教えが生まれました。刀と身体、心と身体がバラバラであっては、本当の力が発揮できない。30%の心の品格の人が70%の技をこなすことには無理があります。
2. 二つ目の「転」。これは中国の兵法書「三略さんりやく」にある「敵によって転化し、先立たず、敵に従う」から取った言葉です。つまり敵と相対した時、無闇に打ち込むことはせず、相手の出方によって変化し、相手の先に立たず、相手に従っていく。そうすれば勝つべくして勝つという教えです。
3. 三つ目の「真実の人」です。基本の技は広く教えてよいが、あるレベルの技は、その弟子の人柄を見極めて真実の人にのみ教えよ、というのです。「仁義礼智信」も「温良恭儉讓」(温かみ、素直さ、恭うやうやささ、控え目、他人を立てること)は、ともに「論語」にある言葉で当流の掟おきて、人材育成の指針となっています。これらの徳目を体した真実の人でなくては新陰流の奥義を極めることはできないし、また真実の人でない人に安易に技を伝授するのは危険である。

(参考:「致知」2014年3月号)

## 経営者のための危機管理

## 問われるネット社会

1. 誰でもいつでも気軽にインターネット上に苦情やマイナス情報を発信できる中で、従来のやり方ではとても対応できない時代になっている。企業に損害を与えかねない個人の口コミやつぶやきは、企業の信頼性、業績、採用、株価とあらゆる面に悪影響を及ぼすが、軽視して放っておく企業が多い。単なる個人の書き込みやつぶやきだからと放っておくとネット炎上を引き起こし、マスコミに取り上げられ、社会問題へと発展する。
2. 炎上だけでも昨年は約500件、検索で上位に上がってくるネガティブな情報となると、ほぼ10社に1社という驚くべき数字である。その原因の一つに、ユーザーが友達とコミュニケーションをとるように遊び感覚で社会に発信している点が挙げられる。

(参考:「週刊東洋経済」:2014年1月11日号)